

## 「最近導入された子どもに関連する予防接種」

医療法人自然堂峯小児科 院長 峯真人

日本では2024年4月1日から新しい2つのワクチンが導入され、接種手技の変更もみられました。そのうち本講演では以下の3点についてお話します。

### ① 5種混合ワクチンについて

5種混合ワクチンで予防できる病気はジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ・ヒブ感染症の5種類です。いずれの病気もこれらの細菌やウイルスが子どもたちに感染し、発症すると症状はとても重く、治療が難しい病気ばかりで、時には重い後遺症が残ったり、死亡する例も見られます。

今まではジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオの4種類の感染症を予防する4種混合ワクチンとヒブ感染症を予防するヒブワクチンは別々に接種されていましたが、2024年4月1日からこの2種類のワクチンが合体した5種混合ワクチンが登場しました。つまり今までは2回打っていたワクチンが1回で済むこととなりますので、痛い思いも1回減ることになるのでお勧めです。

### ② 15価肺炎球菌結合型ワクチンについて

肺炎球菌という細菌は、その中に100種類以上のタイプ（血清型）があることが知られています。今まで使われていたワクチンは、特に重篤な症状を引き起こす13種類の血清型に効果のあるワクチンでしたが、2024年4月1日からは15種類の血清型に効果のあるワクチンが使えるようになりました。

予防できる血清型が広がったワクチンを接種することで、発症すると重症化しやすい肺炎球菌感染症から、子どもたちを守ってあげましょう。

### ③ 小児の筋肉注射について

日本では小児だけでなく大人においても、ほとんどのワクチンは皮下注射（皮膚の下の浅い部分へ注射）でした。しかし諸外国では生ワクチン注射以外のほぼすべてのワクチンは筋肉注射で行われていました。日本でも2024年4月1日から5種混合ワクチンと15価肺炎球菌結合型ワクチンは筋肉注射ができるようになりました。

筋肉注射は皮下注射に比べ、注射部位が腫れにくく、赤くなることも少なく、ワクチンの効果も筋肉注射のほうが高くなりやすいといわれています。1歳未満の乳児や体格の小さな幼児は筋肉量の多い大腿部に接種します。

このように新しいワクチンや接種手技のメリットについて、是非かかりつけの先生に相談してみましょう。